

ほとけの混和会だより

平成二十三年十二月
東光院
仏の混和会
第87号



天台智者大師

十一月十二日(土曜日)
天台智者大師様の報恩法要、「霜月会」が千葉県香取市虫幡の清水寺様に於て執り行われました。
仏教の発祥の地、インドより中国に伝えられた、お釈迦様(釈尊)の御教えは、中国浙江省の天台山を聖地として、多くの人々が修行に励み、更に広く研鑽されるようになって行きました。
中でも、天台智者大師様は、お釈迦様の生まれ変わりと、称されておりました。
その、天台智者大師様は、釈尊の御教えの中で法華経が

一番尊く、すべての人々を救うことが出来るお経である事を確信され、その御教えは、奈良時代に、鑑真和尚によって、日本に伝えられました。
その後、奈良で勉学に励んでいた、伝教大師最澄様は、法華経の御教えに触れて、感激のあまり、法華経を、すべて書写し比叡山に持ち帰りました。
更に比叡山を法華経の道場と定める為、桓武天皇の許可を得て遣唐使と共に中国浙江省の天台山に渡り、天台智者大師様の教えを学び帰国した後、日本天台宗を開かれたのです。
そこで、比叡山を本山とする、日本の天台宗では、「天台智者大師様」を高祖とおおぎ、「伝教大師様」を宗祖と崇拜しております。
天台宗では、このお二人を両大師とあがめ奉り、天台大師様のお亡くなりになられた、十一月二十四日の報恩法要を霜月会と言ひ、又伝教大師様のお亡くなりになられた、六月四日の報恩法要を山家会と言ひ、天台宗では、この「霜月会」と「山家会」をもっとも尊い二大行事としてと位置づけております。

法華経の御教え

その天台智者大師様が釈尊の御教えの中で最も尊い教えと言われた法華経に付いてほんの少し触れてみたいと存じます。
法華経の教えの中には様々な菩薩様が登場して参ります。
菩薩様と言うと、観世音菩薩とか、地藏菩薩と言う菩薩様が有名ですが、菩薩とはそのような特別な存在だけでは有りません。
仏心を抱き少しでも仏道を精進しようと思えば、他の人を願ひ、更に他の人々の為に尽くせる人を菩薩と言ひます。
要するに、私達も菩薩になれるのです。
言ひ方を変えれば、私達が菩薩として、仏道を精進する志が抱けた時、己自身が救われて行くものと思われます。
そこで、法華経の中に登場する、あまり聞き慣れない菩薩様を一人、ご紹介いたします。
その名前は「常不軽菩薩」(じょうぶきょうぼさつ)と言ひます。
この菩薩様がおられた時は、御仏の教えを敬う人々が少なくわがままな己の我を振りかざす、高慢な人々が大勢大きな力を持つ時代だったそうです。
なんか、今の私達の時代に当てはまりそうですね。

そのような時代背景の中、この菩薩様は、仏の教えを信じる人、又信じない人、どのような人々にも、皆ごごとく、礼拝讃歎して、このように言われました。
「わたしは深くあなたたちを敬ひます。あえて軽んじたりはいたしません。それはなぜかといふと、あなたたちは皆、菩薩道を実行して、やがて仏になられるからであります」と。説いて行かれたのでした。
この菩薩様は、お経を唱える事も無く、御仏の教えを説く事も、論ずる事もされませんでした。ですから、人々からは罵倒され、石を投げられるのです。怒りや憎しみの念を抱く事も無く、更に遠くから、礼拝して、私は貴方を敬ひますと、礼拝を行じて行かれたのです。そして、なんと、この常不軽菩薩様が生まれ変わって、釈尊と成られるのです。
この菩薩様のような事は、なかなか出来る事ではありませんが、ほんの少しでもまねてみて下さい。馬鹿にされようが罵られようが敬ひ礼拝の念を抱いて見るのです。不思議と身の回りが変わって参ります。
この礼拝行は、とても素晴らしい御教えであると、この年に成つてようやく感じられるようになって参りました。 合掌



貴方は幸せですか

最近、私、なぜか疲れてしまふのです。会社では、生き残る為にと、競争心を、かきたてるけど、精魂共に疲れはてて、幸せ感は一切ありません。私、何の為に生きているのかしら!

先月、ブータンのワンチュク国王夫妻が来日されました。ブータンの国民一人当たり約四千円足らずだが、国民の九七%は、「幸せ」と答えたそうです。「幸せ、何でしょうね」



経済発展は得られませんか

ワンチュク国王の父が1972年に、金銭的な豊かさの指標となる国民総生産(GNP)ではなく国民総幸福量(GNH)を提唱されたそうです。
経済発展は得られませんか、おっしゃる通り、収入の低いと言ふ事で優劣を付けるよりも、足る事を会得することが肝要のようです。
苦しみの蟻地獄に滑り落ちて行くのですね。

私達は、経済発展と言う、世界の競争心に振り回され、お互いの心は通い合わなく成り、敵対意識だけがわき起るに思われます。いくら経済発展を追い求めても、地球の資源は無限ではありません。このまま、頑張れ頑張れと、ムチを打たれながら、生きて行つたなら、地球の資源は枯渇して、共倒れに成つてしまひそうなの気がします。

今、私達は生きる事の価値観を見直し、大きく方向転換する時が来ているように思われます。東光院に起きましても、真の幸せ感が得られるように、共に幸の念じ会える環境の構築に努めて参りたいと存じます。



十一月十三日(日曜)「ほとけのおそば」みんなでお収穫を楽しみました。

今年は、種まきの直後、双葉の出始めた頃に、台風に合い、大打撃を受けてしまいました。それでも、そばは力強く、育ってくれました。皆さん、ご奉仕ありがとうございました。御座いました。

境内清掃奉仕のお願い

暮れの境内の清掃を執り行いたいと思ひます。もし、都合が付きましたらご奉仕お願いいたします。

日時 12月23日(祝日) 午前9時～12時の間にて
都合の良い時間で、お願いいたします。

〒270-1345 千葉県印西市船尾 622-1
東光院
電話 ※※※※-※※-※※※※